

Hondaの交通安全情報紙



Since 1971



Safety for Everyone

Hondaはすべての人の交通安全を願い活動しています。

編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部... 編集人：吉田宏樹... TEL 03 (5439) 1191 E-mail: sj-mail@spirit.honda.co.jp



SJホームページは ホンダ SJ 検索

CONTENTS

- 特集①：小・中学生への自転車教育 児童・生徒が自ら考え、行動できる自転車教育のあり方... 特集②：シリーズ・高齢者への交通安全教育 第2回 自転車利用者編 運転免許を保有していない高齢者への自転車教育を... NEWS REVIEW ①/関東二輪車協会... TOPICS ①/親子交通安全教室... DOCUMENT EYE ②/雨天時に走行している自転車を観察する...

特集①：小・中学生への自転車教育

児童・生徒が自ら考え、行動できる自転車教育のあり方



藤枝市立瀬戸谷中学校の松永宜雅教諭による交通安全の授業。Hondaの危険予測トレーニングDVDの中にある交通場面の動画をモニターに映し、どのような危険があるか考えてもらう

平成24年の交通事故死傷者数を状態別・年齢層別にみると、自転車乗用中が占める割合は小学生年代では年齢が上がるにつれ高くなる。そして、中学生年代にあたる13～15歳では全死傷者の67.0%が自転車乗用中となっている。

小・中学生の自転車事故を防止するためには、発達段階に応じた教育が必要である。今回は教師や交通指導員による小・中学生への教育事例を紹介する。

静岡県にある藤枝市立瀬戸谷中学校では、全校生徒43名のほとんどが自転車で通学している。6月18日、同校で全校生徒を対象にした交通安全の授業が行われた。指導は同校の松永宜雅教諭と、静岡県交通安全協会藤枝地区支部交通安全指導員の寺尾京子さんと杉山瑠梨さんが担当。この授業は公開授業となっており、藤枝市内の小・中学校の先生方25名も見学に来た。

危険予測トレーニングを活用した交通安全の授業

松永教諭が「『胸騒ぎ』や『虫の知らせ』という言葉があるように、人間には危険を察知する力が備わっています。今日は皆さんが持つ、その力をトレーニング

グしたいと思います」と授業の趣旨を生徒に説明。そして、大型のモニターに注目してもらった。教材として使うのは、Hondaの危険予測トレーニング(KYT)DVD(下記参照)。モニターには自転車が住宅街を走行している動画が映し出される。そして、自転車が一時停止せずに、信号のない交差点を左に曲がろうとする場面が映像がストップ。「この後、自転車はどうなると思いますか?」と松永教諭が問いかけ、生徒たちは用意されたプリントに各自が予測した内容を記入していく。その後、7つの班に分かれ、班ごとに意見をまとめて発表。「右側から来るクルマにひかれる」「歩行者とぶつかる」などの意見が出された。松永教諭がストップした映像の続きを流すと、多くの生徒が予測したように自転車は右側の塀の陰から出てきたクルマとぶつかりそうになった。



各自が自分の考えをプリントに記入した後、班ごとにホワイトボードに意見をまとめて発表

続いて、交通安全指導員の杉山瑠梨さんが解説を行う。「先生が止めた場面で、観るのは右側で立ち話をしている歩行者と、正面にいるクルマです。でも、よく観るとカーブミラーにクルマが映っています。塀の陰にクルマがいることがわかれば、事故に遭わないように対応できるはずなんです。ただし、カーブミラーにクルマが映っていない場合は、止まらなくていいということはありません。見通しが悪い場所では必ず止まって、その後、右左右をよく観てから通過しましょう。次は歩行者の多い歩道を自転車が走行している場面。自転車が歩行者の間を通過しようとするところで映像が止まる。同じようにどのような危険があるか生徒が考え、発表する。「歩道は歩行者のた

め場所であることを忘れないでください。歩行者が次にどのような動きをするか考えながら走ることが大切です。万一、歩行者が自分の前に飛び出してきても、安全に止まれるようスピードは控えましょう」と杉山さんは歩道を走る時の注意点を伝えた。最後に、松永教諭は中学校周辺にある見通しの悪い場所の写真を生徒に提示。「皆さんの通学路にも危険と思われる場所があります。自転車の事故で最も多い法令違反は安全不確認です。少しでも危険を感じたら止まりましょう。そして、周囲をよく観てから進んでください。それが自分の命を守り、相手を傷つけないということになります」と50分間の授業を締めくくった。



静岡県交通安全協会藤枝地区支部交通安全指導員の杉山瑠梨さんが事故防止のポイントを解説

危険予測トレーニングDVD

四輪車、二輪車、自転車、歩行者の 카테고리ごとに動画で再現された交通場面のケーススタディ計25場面が収められており、免許を持たない学生や高齢者の方でも事故防止のポイントが学べる内容になっている。

価格：3780円(税込) 企画・制作：本田技研工業(株) 安全運転普及本部 (株) JAF MATE社



※詳しくは以下のホームページを参照 http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/training/

特集①:小・中学生への自転車教育

自分の命を自分で守る力を身につけてもらう

瀬戸谷中学校では毎年4月に静岡県交通安全協会藤枝地区支部交通安全指導員による交通安全教室が開催されている。松永教諭はこれに加え、生徒の判断力や思考力を重視した指導を模索していたという。「そうした時に、ホンダのホームページで危険予測トレーニングDVDを知りました。これを授業に取り入れることで、生徒の危険予測能力を高められるのではないかと考えたわけです」。

松永教諭は授業の冒頭で、危険予測能力は特別なものではなく、誰にも備わっているものであることを生徒に印象づけています。「昔に比べると社会全体が安全になっていき、家庭で保護者も子どもがケガをしないように常に気を配っています。そうした環境の中で育ってきたため、生徒の



コースを走る前に、ヘルメットを着用し、自転車を自分の身体に合わせておく必要があることを説明

最初は1年生と4年生が、いっしょに、指導員の濱本知代さんの講話を聞く。同校の校庭には、白線で模擬の歩道や車道、横断歩道、交差点が設けられている。濱本さんはそれを使って、児童に歩行者が歩く位置、自転車が走る位置を説明する。「クルマは左側通行です。自転車はクルマの仲間。だから車道の左側端を走るようになります。ただし、皆さん小学生は歩道も歩くことができます。歩道には歩行者がいますか

基本的なルールを実技を通じて学ぶ

一方、小学生に対しては、自転車の正しい乗り方と基本的な交通ルールを伝え、それを実践して身につけてもらう教育が重要である。神戸市では、市の男性交通指導員と兵庫県交通安全協会の女性交通指導員が市内の小

危険予測能力は低下しているように感じます。もともと人間が持っている能力の一つなのだから、その存在に気づいてほしいと思います」。

同校の小林彰校長は「自分の命を自分で守る力を生徒に身につけてもらうことが、これからの安全教育のポイントです。これは危険を予測し、危険を回避する力を育成することもあります。今回の交通安全の授業も、そうした点を意識した内容にしました。交通安全指導員の方々の協力もあり、生徒に効果的な指導ができたと思います」と語った。



一時停止せずに飛び出すとどうなるか、出会い頭事故を再現



一時停止の標識のある場所では必ず停止線の手前で止まるように指導

自転車は車両であることを理解してもらう

「これは周りがよく観えない場所にある標識です。そういう場所では必ず止まってください」と濱本さん。実際に「止まれ」の標識のある場所で止まらなかった時にどうなるのか、クルマ対自転車の出会い頭事故を再現した。

休憩をはさんで4年生は自転車教育、1年生は歩行者教育となる。自転車教育では児童全員が自転車に乗り、実技指導が行われる。まず、自転車を自分の身体に合わせるから。膝が軽く伸びて、かかとが浮く状態になるようにサドルの高さを調整する。次に、ブレーキ、タイヤ、ライト、反射材、ベルを点検。そして、児童の代表2名に自転車で乗ってもらい、濱本さんが乗車の仕方や構えなどを説明する。「自転車に乗る前に必ずヘルメットをかぶってください。乗車する時は左側から。停車中は左足を地面に着けて、右足はペダルをこぎ出せる位置におきましよう。ブレーキをかける時は左側の後ブレーキでスピードを落としてから、右側の前ブレーキをかけて止まってください」。



コースの途中の交差点などでは児童が立ち、注意を呼びかける

の標識がある交差点では、濱本さんから交通安全指導員が停止線の手前で停止して、左右の安全確認をするよう伝える。さらに他の交差点や横断歩道にも児童が立って、走行している児童に声をかけている。これは順番を待つ児童や、走行が終わった児童にも参加してもらおうとねらいだ。他の児童の走り方を観察して、もし安全確認が不十分だったら、立っている児童が注意を呼びかけるのである。全員の体験走行終了後、濱本さんが「ブレーキを使わずに足を止めて自転車を止めている人がいました。これは安全に止まれないだけでなく、バランスを崩して転倒する危険があるのでやめましよう。ブレーキを正しく使えるように練習ましよう」とアドバイスし、交

自転車シミュレーターで子どもの危険予測能力の向上を図る



5月12日、山形県総合スポーツセンター（山形県山形市）で山形県陽ライオンズクラブと山形地区安全運転管理者協議会が主催する「親子でスマートドライバー&交通教室」が開催された。会場には山貴ドライビングカレッジ（山形県天童市）が所有するHonda自転車シミュレーターが設置され、参加した小学生23名に体験してもらいながら、同カレッジの教習指導員が自転車の安全な乗り方を指導した。自転車シミュレーターは、自転車を運転する際に起こりうる危険を安全に体験することができる。主催者はシミュレーターの体験を通じて、自転車を安全に利用してもらうとともに、クルマや歩行者との関わりを子どもたちに考えてもらうことがねらいであるという。



交通安全教室は終了した。小部小学校の藤田操校長は「自転車は車両であり、自転車に乗れば交通弱者ではなくなるということを児童も感じてくれたはず。交通安全指導員の方々が児童一人ひとりの運転に合わせてアドバイスしていただいた点も良かったと思います。担任の先生方にも参加してもらったので、交通安全について学校生活の中でも繰り返し指導していきたいと考えています」と話す。



横断歩道では歩行者保護をしなければいけないことを学ぶ